伊勢物語古意

一

伊勢物語古注集成

昔紀の有常と云人ありけり三代のことかぐらしたりけるとしてけり

あひなれど

三代の朝は仁明文徳清和乃天皇を行ひたてまつり依るまぐ十九可より仁明天皇の妹の紀氏の一の皇子維喬うまれたまへば叶ひあひなるべ（ひとはまさるべきにあらねどのちけうされすきしく）

殺ることを法ならねどこうき殺てそ遠の条四のみこ（維仁これを法和天皇とも）を太子に立たまひて位はぐくけせる栄えも世えをしてはく和天皇乃矢靫十五年となりて左位昇まり仍て有とあり右の方凱乃中万より苏祥の末れあひぐ叶ふあるぬやうにてありしを

いとくたかくまやうにはたらなくし或位に

清和の御時にはいべてたくてはぐこきぬるとひみう清

うてたまふより清和仁明文徳の三代をとくるはあやまれり

三代のことハ代人の始殺ぎりに叶ふひとるハ

三代の中にて云を

三代はまくけうあひ

てこそはう叶ふこと

同三代の中にて云を

三代はまくけうあひ

てこそはう叶ふこと

ちくるとあるにあらず

わ紀あり実録にて

年をそこめてはうう

ぐるぬたるあやまれる

そこう

仁明天皇ハ嘉祥三年

二月崩御同年四月文

徳即位同年十月維

仁立太子貞観元年皇

太子即位

有常傳三代実録云

元慶元年正月廿三日

従四位下周防権守紀

有常卒九京人正四位名虎之子也性清警有儀望少年奉侍仁明天皇兼和中擢拜左兵衛大尉
数年右近衛将監兼近江權少掾云云貞觀九年為下野守秩満為信濃權守十五年授正五位下
十七年為雅樂頭十八年至従四位下為周防權守卒時年六十三以元慶元年より遡ることこれハ兼和
九年ハ十九歳なるべき事なりて仕ふまつりとなれば思ふ

世のつねの人にはあらぬ

あらいかにこゝろにもてあそぶ世のつねの人にはあらぬ
ものかなとこたへ侍ける大
納言ときこえたまふ
ほどに思ひ出給ひて
けるうつつにていとかとうの人にはあらぬ
とおぼしめしあきて
とおぼしめしの一の
子太子こゝろ
つくしの
人ぐらいかに
くるしかりけ
ひめ人ぐらも
ゆるしたまへ
人ぐらいかに
くるしかりけ
ひめ人ぐらも
ゆるしたまへ
ゆるしたまへ
ゆるしたまへ

やうなる物もあらでいとけのこさせ給
ひしものをなし
あるひとびとゐてゆんごろあひらうひたる友だちのもとより
かうくとゝとてゆくゑ知はるもいとくうきゆ事もえ世ばつの
ものとくかきておくり
ひ男うびてゝをてゝをを與の方うかけて見るへきしさて友
だちい渋もしの男ちうくんれど色を葉を折ゝと定めて
ゝ流いいうるぞやゝをうあるゝ有者ぐのもほめうをむとりゝを
なぐちとい方べうそいくきもれうせばかくもろぐくみうれ
れうれるを和をを者のまうるびめでくかくゝでの男ひうゝじ
ゝはゝさうバ姑のゝぐひうるぐうをわはゝて人のおうり
和乃ぬくもあゝをきを者の書なきゝをかもして板葉を
なゝを葉ひゝとゝぐし

右ゝ系ゝ和和泉ふこ
ゝて戎人の従八種梁
ゝ有常の女の腹二男
滋春ハ涼度の内侍の
腹ゝとゝりゝぶう
ゝれいゝゝけめの尼
ゝゝんちりゝ平
のゝうゝくゝゝ
ゝるゝゝ

をゆしりてあひ見てゝをかぶるゝを生バナとゝひてゝたハへゝ
たぐおゆ身身のゝくゝを云てゝ云ゝ時のゝ
はゝれゝゝゝハゝゝる苦のゝハ苦ゝゝし。ナと云て四と八戒ハナ
四年戒ハ四十生のゝなどゝゝゝ四十生ゝゝる統生の
ゝハ記者のゝゝゝとゝゝれバゝゝゝゝゝ可しゝけ生
ゝで書といけんゝハナ四生ゝゝハゝゝ九も行ゝをゝめ
ゝゝし時乃書ゝ時うしゝひなゝしけゝゝけて床ゝゝれて
いぬゝぐをゝもゝゝ四十生ゝゝゝゝゝ。生をゝて
いゝゝど扶を屈てのゝゝし方葉ゝ仏のゝゝゝる花を生
をゝりてかゝゝゝれバセゝゝの花ゝゝゝめ法仏のゝゝ
本ゝゝ生をゝてゝゝしゝゝをゝゝ生ゝを生ゝゝゝハ葉
うゝゝゝハ年をゝゝれゝすゝていゝゝゝけるゝし
かのゝもゝゝれを見ていとゝゝゝ生ゝゝゝをゝの和ゝゝ

既ゝゝゝゝゝゝ者
業和の初ゝ左兵衛大
尉ゝ補せゝゝハ二
十歳ゝゝゝゝゝの
ハのゝゝゝゝゝ
ゝゝのゝゝゝゝ

おくりてよめる

この女たちあるれば元右京大夫妻のためにさぶらひなるのちにまた元のごとく返しとり服装の法を見習ふ

板の和とい袖うるおし瓦の書乃ゆゑ未ハきら調しまひてや
りつる事ゆゑれ和ゆでといふ詞うてきゝ
年ごろもとりてようつい巫にくをいくらびゆをたのこきうん
あてゝ年をなるゝよハ一人ゆゑゝ女の方れ紛ゆゑゝのもも
ゆゑく有けんゝ人おもゆゑゝゆゑゝ山ゆゑを見ゆゑ
もゝていもせの中れ九も有をもあらん時ゆゑゝとゆゑゝなバ有もひ
ゆゑむべきものも

かくりてやりゝりけゆゑバ ひてのてハ古今ゆゑゝゆゑゝゆゑゝ山ゆゑ
てきゝゆゑゝきりゝれハ必ゆゑゝきほゝ

ゆゑりやひあゝの和衣うゝゝゆゑゝ見ゝゝゆゑゝゆゑもしとなてきゝりきれ
ゆゑやひゝ仕ゆゑゝ天の和衣ゆゑゝ衣ゆゑゝ者ゆゑんゆゑゝ参て詠ゆゑる都こ右
見ゝゝ山ゆゑ料ゝてゝゆゑゝ世ゆゑる衣なゆゑゝゝゝゝゝかゝゆゑのれゝゆゑ紙
をゆゑもゆゑゝ山ゆゑる表びいゆゑもれゆゑゝいつもゆゑゝめゝ者み

万葉ゝ見ゝゝ山ゆゑゝ見ゝゝゆゑゝゆゑゝ見ゝゝゆゑゝ見ゝゝゆゑゝ
ゆゑゝゆゑゝゆゑゝ天皇のゆゑゝ
ゆゑゝゆゑゝゆゑゝゆゑゝ

ほゞ[illegible]とゑまうたてれ梅花ゑまれなる人もまちけり
梅をあぶにうゑろふ和といひてゞもまつるあらぎかくばゝり
ほゞくてアふ人をほろ行つくほゝとひてあのらぶられさをを上
てり。古々多くハ春の新まゝ入てれば夏の意のまこゝハ行らで
もろぶゞきをとゝ女乃武をのひゝをせうしけんをいみうハ意う
とうなゝてり

う

多ゆゑことゞバあすハ雪とぶ降うさしきえをハあらとも花とまきや
けふあちらぬアろう来てれバこうあ生ハあゞ和ゝ一あるらハ
もし明日しもとひまゞ雪のめ新て花といえゝんやハとゝひ
て夏ゞう行ろふ絶各の常とこハ孝手和トのゝて上なの
うてといゝ人ゝより我事わり
芳なるいあるゆゑてり男ちくありけを

男ちくあるとひちう
とゝう云云可申し

古々夏之集うちうなりちるあて方ふゞてうあるゆのゝれる
とゝてゝてゝほゞう事にあ生てゝくに春ゝむゞて人うゝとゆ
てゝ生てゞゝむゝアいうゞゝろうんとわりてゞもいゝもゝうあ
らねバ浴くもゝゝゞきくみてもいちゆゞゝう彼もきてゝろうんと
わりひけ生バ萩の葉のもみぢゝゝにつきて春をゝみてなんたくを
ゝる 萩ゝゞ花のゝゝゝをふうて用ゝちかくゝゝてゝゝ人のゝを
ゞゝて夏ゝく 世のゝうれ人ゝをゝゝしゝバ春春ゝうゝゝしゝて
ゝゝゞゝゝゝゝゝ人ゝ春をおゝひてい一春ハ彼生ゝゝゝ
ん。なゝゝんあゝとハかく春ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ女をゝゝ
ふゝゝゝんゝゝる上最のゝゝゝ人かゝゝんやハ

女ゝゝゝむ人ゝゝゝれバゝゝゝれゝんゝて春の花乃ゝゝゝ人ゝ我ゝ
て男のゝゝくやりける
春をつけてやるを吟せる俤下ゝもあり

[illegible]

一枝の篁のやゝ行うつろふもをゝしくはなと黄くき
きゝて行う時ゝとゝみ雪はめくとらゆるをいづきうえめて
ゝ乃つゝやとゆをきゝて下ゝ男のうゝをゝらくにきゝめ
めるあゞんともはゝうめめあゝともけゞめゞゝを者めてゝゝ人
を行し
きゝこゝゝてゝゝゝうゝみゝる
女の下の情をゝゝめゞはゝて百せし
ゝゝ乃ゝ乃ゝ乃

なら年のけさてこ弦の
人臣下の家礼を用ゐる
るうゝ行をいとたま
まをゝくハ皆ゝうゝう
又ハ男と夫ゝ仕ゝまゝ
うゝ女めゝゆゝれゝ
れハめゝゆゝちゝうゝも
をゝう又ゝしをゝ女ゝう
仕ゝめゝ男とゝ仕ハわ
ゝ女ゝ仕ゝまをゝと
いゝてゝうゝやゝゝゝからんや

○本朝文粋巻一尉弁男女ゝゝ徒既弾琴者間
巷称弁御
俗謂貴女為御蓋
取貴人女御之義

○本ハ男女をいゝゝゝゝこの
わゝゝゝの仕ゝハやゝ物
して男女ゝ仕ゝゝゝ女ゝ有
きゝゝのとハちゝゝものゝ
ゝハまゝてゝくいやゝゝゝ
ゝゝゝゆくゝゝゝ
をも臣ゝゝのハ　あゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ一
の仕ゝ
ゝゝゆくゝのかハゝゝれ
ゝゝとゝくゝ一首の結

紀の有ゝ女ゝ
だ臣ハ来て夕さゝりハ
てゝみを例のまゝて一条の
文粋ゝ仕ゝゝ
なゝのゝゝゝ同ゝ
説ゝ後漢書の注を引て礼記注曰后之言後在夫之後故以女謂
後達今考ゝゝゝの故以女謂後達ゝゝ六字ハ後ゝゝゝゝゝゝゝ
人ゝゝゝゝゝゝ礼記漢書等の注ゝハゝゝゝゝゝゝゝゝゝ人
をゝどハきゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

うりとのこつゝをひてあるさ雲のとゞまるぬハ紙をうゝ奇をうけて
せりさゞてゝうゝへいゝゝろをのゝちゝうもあるうきてのたくれゝ
奇の細うゆゞりてしみ繻の細なゞゝゆゞりてうゝ生ゞうゝへを
まゝし

とゝ先ゝうゝるハ[あゝ]ゝ男ある人[かみ]となんいひけ[あゝ]る[ゝゝ]ゝ[ゝ]ゝ[ゝ]ゝ[

[illegible]

[illegible]

[illegible]

この女かくうたおもてうをえてけもうわがうぐきともなしよ
をなしてちりてかいらむといづこうおなさて
性こうハあやしうたゆめるごとし万葉ノ異殊ナの字を
けとまむより移じてかくいもちう
いづこ方ともとめゆうもとかぐやひめ出て九天有えらけきどいづこ
をばうともわがはるざりなれいうり入て
又九ハ九ノ字ノ上ニ意ナリ
九ハ自由ノ字ハ有ルトイヘドモ
九ハ有ハ九ノ字ノ上ニ意ナリ
九ハ自由ノ字ハ有ルトイヘドモ
九ハ許量度ナの字の意ノ字ノ上ニ意ナリ

カツラ　ミヅノ髩リ
葛　髩　髮也
葛ハツル艸ナリ
髩ハ頭ノカザリ
髮　ソヘカミ　今云カモシ

ハ形ヲカヾられハ面ヘトカヾ
タカラウ面ヲけとつくること
て方ヲ云ふもカラつくけり
とヲハあかりとも方ヲ云
かけとハてけれと面新
とくくハ一位ノ
新ハ面ヲ云ふハあれ
とたく新ハ面ヲけ
物ヲ新ラ形ヲてつけ
ハ面ヲ新ラ形ヲて
て方の面ヲかくと云ハ
ウヲ云ヲ

つくハ又一つハ云ふこと
ヲ云ヲ方ヲてつくるも
ハ面ヲ新ラ形ヲて方ヲ
ハ面ヲ新ラ形ヲて方ヲ
ハ面ヲ新ラ形ヲて方ヲ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

にさるべのすがたしるきてどくいえてちかへりてさる故のありさま
聞えうれたるべう定まれる上にて男もいうで今いろきんとを
まをを祭りあてかくほうてきしならん此あひだのすがた
人うたがひたるうせうもひらかの作りざさし
とつひとをまてたのがせくうたなりこれにいうとくうなりまは
はひうう絵きてもたるひたるたのうもうべうるはず
互てふと言うとみうう伝て浦くるわうもし。おのづうとハ
かてうう書の定まれうをいふ拾ふ笛竹のもとみふるね
いうもうもおのがせくこハなならをもあうなんこうあうがめ。
源氏のはくあてうえんを物うがしてうこいがうまをもえう
めうたうう思びて上いつきたれみうをはうていひううたひ
あうる時いはんうきくをうがうとのをふあをれうがをうを
たうきたるづをかうみをうめてはきゆうとをがうれうる

源うなどうきひううれあうしをみ人のかをたてうあやうう
あううれて人をまどもしかをえんうをうはどうなうの紀をの和お
もひうう歌いうはがうきうもうしはやなどはうこうてうれて
はううれうくみねきバせうで原うなりあううしたるひうはうがきい
とはにはうやうううて者うかへりうをうくうもうらぞいであれ
うううしかくはうはがうりにううなどやうにあひしきるる人
来うもうらひはううを言はうれあ男やつけて
海たうをバはううる人なうでがうちなど君のはうろはあうれも
けううものきはううはうをがうなどはうをいうがうう出うひ勢をうき
きがうくあうなくんがうけきバおううみあううしたのがきあく
海うはきううえあうきバをうくがうにえねんがえをがあうき
あもはあはうあう海仏もうくんがうなうこえううひうがうし
きひみあうさうをあうくたひうあうくうものし

[illegible]

こハみ一條しるるをるよりて弱るるがゆの許り二てびを

おるをるるるるるなどれるをバるるべ弄し拍るるを旦おるるハ弱る

あるをるるるるるれハ弱楽し

うるるるるる

交の字を用ゐたり。今いかなるをとあきてどがらつけぐさ
であらたまるに一心と書かればひとつぐさうをとるもづ
をうひとつぐさぞちとしきもごとしれば仮あり
秋のもれちる我ひとおもなかるとけりたまのすがもいひて
男のさる高きをえて女のあいきて共ねをし旦ちくる
のものをつひひひをまのをもをるしにてをむうはたのめく
みてとわりつらけしくをはひにはいとふまのうこるひつをまで
はのものもをえあををれるまて翁ふはたもはをまを書ハ
なをを形のをのたまををを

[illegible]

むしのみちかわてこしらるくのみども井のもとよりてあ

そびくらをを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ハ一つの井の形し井筒ハ三ツ井の形なり井筒ハ井の形なり井筒と云されバ筒井の井筒を略して筒井筒とハいひなれて二の句乃井筒ハ二ツ井筒なり井筒と云るを略して筒井つゝいづゝと略ハ語しい下のつを四辺とかゝる

にやいろ〳〵和の歌ハ五百箇之伝統なゞ云つの下ニハゞとしあれと

[illegible]の絡ゝて天津小津流津なゞ云歌ハはゝりなゞ次の絡ゝ云

つゞけ絡ゝ井筒井筒ハ井ハ之とりて い絡のきゝゝる所ゝ

をゝ井ハ古年ニ筒井井ハ之とりてるゝを之ゝあゝゝゝるなを

て語のゝゝりも四ゝで絡ゝ井つのゝゝゝゝゝゝ。かけしハ

絡ゝとゝと和二つをゝゝりゝゝゝ絡ゝ求人の歌ゝゝゝ人ゝゝ

ゞゝも歌ゝゝゝゝゝゝハ字れあゝゝゝゝゝゝゝかけゝゝ

絡ゝハゝゝゝゝゝゝゝ

以ハわきまへてうしろ
姿をうら毎のあの白とり
ちりつゝてゐるさまをやし
うふうをなほともそ
なくちりてちりそなな
きし其ふさてのちそ
をちとをんとてくハ
ちかうり秋ふまを
さり

世乃なく笑てまづ〳〵なりめきバかゝてのこあらんいちが弱
も人ろうさぶとて男ハうやにの女うもすきんとてかうふさ
るゞ〳〵深山のはく本くにいんるゞとくわいろ〳〵とてるのなら
きろりめれバ行るゆうつけてもいるゞひちうく。ろわ袖結
やうとの国かづらきの彩ろうすむ男女ありけるの女かうさ
ちいうきうきうしとうゞろ女ひうそて行ろうの女いとわろ
くろりうけきバわるひうゞうとて行ろうきくろひちゞらめをきう
けてゞりいけまのめい童ろめうなんをけるゝを見今うろく
国ゞいうろわろくちろうけうハ多くくなりしをうろり
きりろれどうの年ゝ書あ〳〵とみもんゞ行ゝもなうてろうれゞ
ち〳〵てゝやりろきゞ
年のめ行ゝて家もなくて物ゞて家ゞろうり男を
ありてくやうしけうきゞのうち物あるれちきバち国してれ

さりけうとハちろうけ
きうをつゝそうゝ去
れハきれけこそう
可

ゝきうあ〳〵ろれゝうを
をきとこあとんありてかくうゝやあうんとろひうゞひてせんさいの中
けうくれわろく待ろふちへいあるゞ行ろて天きバひ女いとうゝ侮々
わゝてうちなゞゞて
あうりけんうゝくれきバかゝうり男のうゞゞう。假相ハ女
の兵ゝうをりみ万葉うり実なくバ行方ゞうん稽笹ちる男程
乃ゞゞもうんとゝいゞ
風欣バかゝうゝ法ろゝ山物まうやうゞゞうりこゆうむ
こハ万葉ふく海流ゝうう白法立田山ゝうちうん姉ゞあゝうえん
みニ人ゆゝゞゞうゞろゞて秋山をいゝでか見ゞのひゝうこゆうんみゝのう
万葉ゞゞ山の夕ゞれうゝひゝうか見ゞ山後こゆうんちきうゝ我
もてちゝ葉うハ風欣バ云とゞ〳〵の人てうゝうゝを又ひみう
うりて陽去を絶りて一つの物語とせしもけて万葉なゞうゝてハ

ひうこちて六帖うてハか
ゞ山の花のようちて
二ゝうり上うり一の作
ハちうりのちうて
のちゝ今まくハかくちゝ
きゝおまけ〳〵とうくう
家をうゝれ一つ家
こハ一時万葉のうを紀
しうゝ人ゝうりけ業
平面昭ちとハちゝを
れうるわをえ作〳〵
ちうゝ山風山のハのう

本の一二句はたい序にて未もかくれうるやなしいかうらうてそ
ら法う堂人のるもふてめてさる法く嵯峨しきみのめ法つきく
あらん西乃物るめうらひ法を女ゆう鹿しめるよしにまをせうる
ていうにうち生バ移遠をあう物人のるす人うあひうてうかる
ひうて考をれ白ることみうて田のみうをけりかうぐうぐ一の名
やけうきんとうてうれバい山くハめす人乃をとひうぐうきて
彼ら法ををうきうをえうに法もきくくうりうてうとうこう
かくうきうぐくうをを今もうるゞひ紀者の常うて法り。たうく山そ
神武紀ニ皇師勸歩兵赴ニ龍田而其道狹嶮人不得並行ニ乃還更欲下
江東踰ニ膳駒而入中洲ニ云云ニ万葉ニ
をぐうの岳とニ云ひおうわうり法田へうゆうる西乃山法うる万葉
うかうぐ云くくの法のううの峠ううくハ所ひうの就田のし
法世の俗ハ法
隆方の迫を立

きううしうて法ううかう
さしのうもつうう法田
のゆうう法をのきく法
てううをうくくう
あつう九云移遠うを
今ゆうぬ法人の立
田のうとあるハ本ハ法
のうくしうてあてきうきうのとううて所ゆう人のうをせうをたううあう人とううかゆ堂人とううてもきうう
うとうをくきうをうくくうう
ーーあひ二つ乃
あひうきうんと
うり

田山とわのえてひうう（の地記を書くくせううあう。法きのえハ法うを法役
のやうれう法なのうわうう万きうくきうう法。
ううふ法うるうてふりもうふ法うるうて初ぐ
うてううう寺ハ法法と法うううて法の法とうの法とうううし法世の俗
ハ法まうて法のううけのうとあうう法ちうて法まをけうてうううハうをううて法うをのう
ううみけうをううてかうりなうくうう法ひてかうう法
をうくうてうぐなりにうを
うう情あをバかくにうひううう法れうぐうしうくハ号を望
うくううひうう法けうけうけん。をうくの法方ゆうある
をううう法次の法ううを生くゆうくうあを生ぐうに法ハ方号う
困うう法ハをうくのうをうて其号をうう法にうをうに法を
さくゆうをうう法ハゆうあうをうう法ぐうう
うう法うをうう法ハうううう法ハゆうあうをうう法ぐうう
法も法り法ひうう法ひうう法ひうう

往而を今なこ
ゆてうるれと
ゆうういうこと
あれハちかそ
ようき
今年ハあく初
の年ゝ月ハ古
年をのそこて八
月う

ゆき〳〵かのちのやにうゑて天ゑ月ハちぢめてうゑてくもにうゑ
けるといふハおとけて梅を生きあげてらづてうゑ餅をとりて餘
これのうつはものうもりけうきえてゐ竹ゐうがりていうをなりにゑ月
ばかのあハやうとのうてをえやりて
へうてハ四うあもうてのおがづうゑくけくゑ月てらゆうきらふ
あうちちうう日裏の字を用う。女の賛いうへハ宣誓なんて
あげゆゑもあをどて いうをとハと更うてたゐうをと上
うハそもうるゆゆびうをうし。けこハ或流こあのうえて家人
妊娠のうとらへうも祭りちうにあうゑどちゑう餘子と出万年
ともあうあをバ留ゑ繁る餅をともちをバ餅餘の宣てゑをしうう
子ハ指うご提子きとのまこゆ
小さうけうのうハううう

見てのあうりえてきうんいうてゑひやうかくうゑ書物ともも
ゆうそ万年ゑ見てがあうりえても特居ハそてゑうをもてんを

ゆうれてをゆうんてふ
うゑゆうされと四うえの
ゆうてゑゆうてゑきうと
ゆうてうてゑうれ
てうゑゆううううう
○あハゑうもきうゑか
くううらうるハうと
ゆうる時のら
ゑてきうきうて
うゑうゑし

いとゆううなゆうけてあの二首ハ万えうのとうをうゑくをうもち
ゆて作り見きゑおハ記者のまゆるゆゆうゑうるを物書まの
実のうとうゑ人ううゆゆうゆうれ
ゆうゆうて天ゆうゆうてやうゑ人うんとらひううけを
ばううとゆうてうゆううちびくうゑううれば
見うゑひうゆうゆうゆ

わすれきこえてゆきかるる浦の三とせをでこざりけるを
ぶつわきるに　三とせをでこざりけるを
かこわるるあとハ倭出のきうて京より男のおとづれのたやたる
ものをおもへさてきうり
つきのむころいひかるるくらもひあるもむと思りけるうひ
男きうりうり
こゆるとづに遠く告うるあうり三年ばかりきづきさうるを
あやしけて今の御使を芳うる夫他国へうられ給うぶれを
どうしてえうくらもこよも無くハ三年の後変ませんを形ハ夫の
せうをやなしやもあやしけて今ハ言ばつくそいううせん
もあ乃ろるるづきをかくきづきしハ行うくて三度迄を
うぬハ絶うるを形すてよは今の上はたづり逃先て出うあう
なくハ三年を待づうるを京くもておそ二とせをうり結

ばうあうやうんはくるを三とせをでを待うるハ如の万寿うり
この戸あけうるくとうたくきけきバ今ハ人れとくきたれ年ニ者とあうるまい
ひあるくぶ式なんまうていづたりけう
あううるの年ハうををうちわびてたづあうひうるひきうをれ
たくとハ右の細こもをうけてつりきハ明うけし浦の俗ハ万寿を
紙ぶ　紙ぶ　紙ぶ　紙ぶ　紙ぶ　紙ぶ　紙ぶ　紙ぶ　紙ぶ　紙ぶ
ど弟きうあみわうるの形を結をうあて板をや倫ん
けくううをこ
といひづたりうれバ男
うぎ　うぎ　うぎ　うぎ　うぎ　うぎ　うぎ　うぎ　うぎ　うぎ
待うるゆと弧弓年を経て　うぎ　うぎ　うぎ　うぎ　うぎ　うぎ　うぎ　うぎ　うぎ　うぎ
こハ弓を鳴し神をもうくうりて拾ひをるるるあうり上
うをうひくけてつうみ神云のうるいさの右海をうせ
たうくとうるうのうしひもうく男かあを拾うるぬ

伸哀紀二皇后はうう
神主ううりうるい武内
宿祢ううを作ううて
神言を述てうつをえ
色ハ上古うり神言う
弓を用うううりあつて
今も巫女うり弓引ハ

二

神云い文部をてし給ハ
ちうう八三つのうをえ
ヤすのく見とつあけと
コハすほをうみうう
のくといつれとうく
ちうう和うう年
に年へてあく給を
ちくさーうう仁
者のかコハさかすち
うつすをくちくう
うをくれいし
○いかとの男の命八新
松すう男こういけう
と云八文のををもず、
天ち人の後と

くうてを係う年くく持ぐちて咲云いみをあくうし給ども給う
たうびうを八女八孫うをあくうしかく作をうを考ひ〳〵ねく恩の文ま
うれかく人をていハむくつけ〳〵を八いひうくたにたうどさる給てあれ
ど給うう一○こハわのどもなしのともうくうゆうさうくハうう
のをを云下をバなく男めあせし給ひを今きうしをえせうたくを
うしけりなどうをみてあのちうひくををも給りうをゆううを
ど一をの言ちううぞけてを給ひハ男めあちうへうう也バうぐ
一うをを考コハうくとかのちうひもうも也り○忠の字を日本紀
コハうめとうみ善の字をうをううるはとハうをれうくよ
むういてハをおううくり
とうひていなんとしけをバ女
あづをうひをどおうのどむうしうたくろハ考うりにしあを
三年をでもうをうをづれたうをのバせんううてかくうをあ

をうをうをうひ久ハ
ちを年ぬくををうう
うをうをれなうをり

をうをうあうをうひ久ハ
ちを年ぬくををうう
うをうをれなうをり

をうをうハををを
をのうらしく

をうをうハををを
をのうらしく

をうを

○ちうりうなりて、日本紀に、迦後の二字をよめり。○おやゆび、和名抄のよび類に云、栂（於保於与比）食指（比止佐之於与比）中指（奈加乃於与比）無名指（久須之乃）季指（加乃於与比）拇指（おやゆび）とよめり。然は必季指のことと思へべらなれどいづれの指にてもあらめ。

あひだにて結ぶ人をとぐめるは、あひだ分いとできうえはてめるうまうるはうれめるの上略し万葉にも結の字をよめり

なかきてとこいづらなりけり

清水のあるあり所にてかくよめるなるべし

ものもとめるおいらひとりそもそも男の此ことうりかくよめるなるべし

ぐてふ一のさてしいづらはをむすびくくるとよめる用

さるをこゝ、あるとうあらをたるゆ結ばいとものをたるゆ

とうとうとひとりん清をうけをきけんう

もとくいひやりける

ひとたら敷ともつもるのことならでありけんさてしく意

ぬれうさはぐちりけるとよいりけ清ぐは華二つうけるを

つつ清しこいとなるとちるあのちをわざうるの下ろいつり

杖の聖を尊ぶ者〻新の神ちうもあるでめる杖ぐ清さうりけを

ちうをたうはけをでうるを杖ぐ清さうりけを

露とつもで露清く海とうを露とうほして用わうるを

とせうう瑞西とあるでめる杖といひを今をて古々言

うもを今一わうり塩ぐてめる杖といひを今をて古々言

いろごのみうるあうて

古今恋三 小町

天ちんち紀氏分をうとをうびやうれなで匹の色ゆくる

海松のちを浦うをる自なる分を杖とおりをうて

[illegible]

けく男をいくづらうそをゝめ刈りんと思ふゆゑ人〻うたがひて
[illegible]て女の家のうちなどのうちにかくしてえあいめを
[illegible]や男のうちにてあるべいとゆゑ
[illegible]
小町のおうてやさしきさし侍りの心ばえ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

たるを知るべし料に浪の字を用ひたるもなほ古本又かゝるもなるべし
浪波とも一所にあるべし八雲抄に今本又袖うみるとも
とゝ八河内にあるを又袖の湊と物して筑紫の一
つ乃名所とも云へり

むらしをとゝきけりあはもろひとゝ拾いまてきもいつるとゝうり
にくれそめの母もろびちて盟乃要箕を拙乃里八浪のゐ
うなくうげのうつりくるを見て

此和歌ハ母のうつくしき人を居てを浪ふ時を拙
男のうあを母の拾ぶをきりてぬき箕を母のうげやりる
るべいとはらぶつ時うてゐる和歌あるべ生るし

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ちくハ男のなくなりぬとまうす詳あハすると

芳子ごのことなりけるぬ出あていまくれハいろひなくて男

あちらハいろいろとあのもて去ぬハきぬめるかもて夫のえる

ちくくて心をつきをきらひく生てるをうれ夫乃ちうかわるさ

うちでを笑くくて化きるなるべけるをバさごめこちるとふ詞

をいるけらうれうんや仮乃比文のさうし

行而右相紹答著ちうちに名んあもらさじとも比ひしをのを

ちくでくあを

ぬく契もみびしをいうでかくあひごうやうハちりに名ん

ちさ比乾もて詞をなしうけてあのんをまくけのらあか

ちうの男を云ちうべ。酒とハ字音ちうをい時ちあくうる仮

云ハきしもかるふの日紀ともけ仮ちくれ。かごこハ仮乾ちうを神

代紀ちうあけくく乾もてあをうあるてあてくちさ詩しうり

仮撰集ちうあ

ちうあ

ちくとハ花を云ふあと

初の字新撰字鏡二阿

保古和名抄二阿布古

布保、通音ちさく

ちうくくちうあ

ちさ云ちうもうあ

ちうあうごあけるけかうあ

もうくくこ二海の后乃考宮のうあほんあとかける时花の名ちうあ

神ちうけうちうを法ちうさなりけるく

ひ后まうあ事ちあの山鳥ちうとかけてあるちくくあにもちくくれとお

ぼちうちうあるのしまうあ事ちあのうやけとハ男ちあ子乃姉妃をりもし

ちうを事ちあ子乃母儀をりもしとくくわちうちうあ紅ありやうの引儀

原乃母御を一の皇子母ハ女ハ右大臣のおれなうあ海氏の

物語りもしハ物くくしくて仮仮のうちうあ考くもみちうをてハ八条れ

山鳥ハちうとうあ芳方のハ妃ちうあ生バうれてあ事をのうやけ原とう

事の本を知ぐ〜強てく海氏物ごうれけくくうりてハすべての語物く

きくうのうゆるを古今集又比文ながうあの物ごし語を出べうを

あらをを 詞ちうをきあハ略云物語をちあちうるあ文の当ちたくく系

ちくの物を比文の詞ちくくちあひて物をし方を平句ちんやハ 我ハ言

ちうを山鳥原ちうとちうるハ清和のうごあ事とゆゆうる時ちうく系ちうて

自観元年二清和即位同

年高子五節の舞妓ち

れハ清和東宮のあひごハ

ひうさ氣ちうちうく仮ちさ

ちうもい時のうちあ

ちうくくうちうちうち

みすゝて忠仁公のそゝ
て侍るハ必年〳〵七〳〵
九〳〵十九人〳〵あるゝ
さかりと侍るを
後〳〵の后の宮の内侍
しとらせすゝまひしゝ侍る
て用ゐ〳〵うゝ時世也

出仕あるべきよしをもてなさせ給ハ御てまつりうんをもてなさせ給ハ
ゆこいあ海女々れハ下のたゆ型れ行殆の多こるのはらてこ多〳〵くろ
せれハ〳〵〳〵ハ時きり〳〵を見てゝゝふるゝ
言子のゝ〳〵ゝてゝてゝをはるゝるゝ
らせけんゝりゝ〳〵〳〵〳〵

男女乎盜而往道公水者所公而文將吾甚与問公領幷計礼者
結而為吾独將而往命幸命墓わ成牡丹本而江還公彼ハ敗老而公而
大原栽堰之老水尾結上而飽甚与問老人者爭等

以一条右衛門尉ハ蒔ちりけるを他の多れ今ハ蒔てハ
たゆこもれ蒔きバ右衛門尉とてもたゞ蒔ハ人ハ
ざるけきとゞ有ざりのるハ右衛門尉ハ○哉のミハ而ハ
ちにて人のとあうをちりけきバ人ハうつうとえて
かなしむさるし且ふぶ法ときをはの字蒔ちりてこの日
本武尊乃うたゝの坂ちく橘姫の法とくうたひし法のうをうり
えうちひちく音書右幷との蒔てのれ幷の書れ
ふり右もゝ爰のもつうえ遠し爰ハもなどの右ゝ四ゝ文ち
ちひ出ちくかきハいうとアひてちげく法しけちくひちハ六帖ゝ大
ちゆ せが井乃ふをまちちをハなくもあうひちくゆうん

或伝を法わ井とちれ
二枝さうゝ右ハ法わ
所とあうハ爰の中ちう
んんのくゆちちのせ
井ちあゝ仕ちゝハせさ
の中ちてちうれ

やも者もの二つのもハ
ゆ有ちそ右ハわのあ
ちうちゝし

ちうをちうゝて作ちる爰ちゝ
ひちゝでもてちつて移あの
ちうれの爰ちもせり

右あうり堰之老れとちをもて爰生ハ山れをせる
堰之井ちしいふを略ゝくせの井ともりふきん
爰ちゝ男塚ちりけるぬのもとん

こハちるゝくわゞうり爰てちふ女をちし○ちつハ万爰ちり小場の字
をけうゝもちつゝもちみてちゞうちるし

ちうハ玉のをちりなもちえてつちよ山のなゞくうゆらん
爰ちえゝハちるゝくちゞうゝ右ちれて考ちうつゝちんハ久ゝち
ちなゞてかゝちえちんちしこハ上と下とに山のすじてちちるを云
てちんと結ちる明辯の例しまて右のゞちいうゞでなゞてちゞく
うゞひとがむちる爰ちちもちりうちく右ちえちくちる知爰ちんん
とハちり万爰ちうちさうちく八玉の結ちりり名のちつハ富士の高

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

古事記に宇気比枯宇気比生とあるハ祈し日本紀二所猟とかいちふて猟すなくして呪詛とうけあとくむすいてへ[illegible]にも他るも[illegible]

[illegible]

有事ゝを行ふ○こけ〳〵ハ古事紀日本紀ハ行の字をゝゝていのゝもちつふにもうけひとゝろへりけそ呪ハかぢり咀ハゝゝひゝゝゝ

りうついぶよりうけく　ぶゝゝゝゝ下り己がうくゝゝゝゝおりんといゝで

かゝるもゝをゝらくゝゝていゝゝゝゝ

ろんとなんばかりなる事[illegible]こハ五まる名[illegible]
[illegible]て考しくまろ〻[illegible]絆ゞ〻〻ハ[illegible]